

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立兵庫小学校
1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケート及び職員アンケート、児童アンケートでは、今年度の重点目標について概ね達成できたとの成果が表れていた。 ・【心の教育の推進】温かい人間関係の育成に努め計画的に心の教育を推進することで、思いやりや規範意識を高めることができた。 ・【学力の向上】グループ学年や全校授業研究会を実施し、分かる授業で子どもの意欲を伸ばし、友達と学び合うことの楽しさを感じ取ることができるようにした。 ・【落ち着いた学校を作る】立腰の定着、靴箱の整頓、学習用具の整理など心を整えて自発的に取り組むことができるようになった。
2 学校教育目標	あいさつ 笑顔 思いやり 心をそろえて チーム兵庫 ～正しく、 かしこく、 美しく～

3 本年度の重点目標	心の教育を推進 ～思いやりと規範意識～ 学力の向上 ～わかる授業、楽しい授業～ 健康・安全 ～落ち着いた学校を作る～
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○子供が学習内容を明確に捉えて、形成的評価や周りからの承認を受けて、学びを開始・持続・再挑戦できるような、授業づくりを行い、職員の授業力向上をねらう。	○授業力アンケートを取り、「授業力が向上した」という項目において、肯定的な回答をした職員80%以上	・研究主任の模範授業や、研究通信、授業モデルなどを校内研究ボードを使って、全職員に共有して、授業力向上を目指す。	・		・			学力向上Co 学習部		
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートにおいて以下の内容で「よくあてはまる」と回答した児童平均62%以上 ・「ほかほか言葉をつかっている」 ・「笑顔であいさつができる」など	・人権教室又は人権教育週間を学期に1回開催する。兵庫小児童をよりよく育てるためのアンケートを実施する。 ・ふれあい道徳教育として、参観日に道徳の授業を公開し、家庭と連携して取り組む。	・		・			ふれあい部		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていると回答した教師90%以上	・毎月児童及び保護者へのアンケートを実施する。 ・始業式の日「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。 ・教育相談月間を設け、児童の心の様子を把握し、学年、職員間で共有する。	・		・			生徒指導主任		
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童アンケートにおいて以下の内容で「よくあてはまる」と回答した児童平均65% ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」 ・「将来の夢や目標を持っている」	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を年間10回以上実施する。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実施する。	・		・			ふれあい部		
	●互いの良いところを認め合う活動の充実。	○友達の良い所を見つけことができたという児童80%以上	・友達の良い所見つけ(なかよしバールン)に取り組む機会を年間3回以上設ける。	・		・			ふれあい部		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童71%以上	・「給食便り」で食育に関する内容を提供する。 ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実施カード」を実施し、朝食の必要性を喚起する。	・		・			活動部		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・各月の目標時間外在校時間を個々に設定し、会議や連絡会時に途中経過を確認していく。 ・8月上旬から中下旬にかけ校内研修等の校内業務を入れない。	・		・			教頭		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○児童の実態を把握して「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、それに基づいて支援を行っている職員90% ○ユニバーサルデザインを意識した学習環境を整備をした職員100%	・「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の記入についての研修を行い、児童の実態に合わせた支援方法を検討し、支援に生かす。 ・職員の児童に対する理解を深めるために、特別支援教育の視点を生かした支援についての校内研修を行う。	・		・			特別支援Co		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○落ち着いた学校を作る	○自ら行動するたくましい子の育成	○靴箱の靴のかかとを毎日揃えている児童93%以上	・立腰時・給食時間等の放送を活用したり、各担任による学級指導行ったりすることで自発的に取り組む態度を育てる。	・		・			ふれあい部		
○分かる授業、楽しい授業の構築	○よく見て、よく聴き、考えを持ち、伝え合う子の育成	○子供へのアンケートにおいて、自己効力感に関する項目で、肯定的な回答をした児童80%以上	・注意段階で「モデル、ずれの提示、自分の問い」の手立てから1つ、動機付け段階で「形成的評価、ピア承認カード、成長ツリー」の手立てから1つ、授業実践を行う。	・		・			学習部		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	--